

3・11伝承ロード推進機構(今村文彦代表理事)は、東日本大震災の復旧・復興工事などに貢献した建設会社の活動記録を残す「映像アーカイブ事業」で、前田道路と東亜建設工業の作品をオフィシャル映像に認定した。13日に仙台市内で映



(左から)大西氏、今村氏、竹市氏

写会などを開き、前田道路の大西國雄常務執行役員製

品事業本部長と東亜建設工業の竹市卓矢執行役員東北支店長に認定証を贈った。前田道路は津波にのみ込まれ機能を失った仙台空港の滑走路などを復旧した。作品のタイトルは「仙台空

は懐かしさも感じるが、当時は自分の家族と連絡も取れない状況で社員が懸命に復旧作業を行った。これまでに社内には映像はなく(アーカイブ登録で)多くの方に伝えることができる」と話した。東亜建設工業は「気仙大

3.11伝承機構

前田道路と東亜建設工業の作品

震災映像アーカイブに登録

港を啓開せよ!」。同社の滑走路復旧は、米軍による緊急支援活動「トモダチ作戦」を支えただけでなく、震災発生から約1カ月での国内線の一部運航再開にも大きく貢献した。

震災時に東北支店長だった大西常務執行役員は「今

橋を通せ!」のタイトルで、津波で流された国道45号気仙大橋(岩手県陸前高田市)の仮橋架設を映像に残した。気仙川を横断する長さ200m超の橋は岩手、宮城両県を結ぶ道路の要になっていた。

橋が通行できなくなり70

キもの迂回(うかい)が必要だった状況を早期に解消するため、同社は設計をしながら施工し、施工をしながら設計するという状況に対応。クレーン台船を現場に横付けするなどして作業し、下部工の基礎打設開始からわずか61日で仮橋を架設し通行再開を実現した。竹市支店長は「震災の記録を残すことは社会貢献が使命の建設会社にとって重要だ。担い手確保にも大いに役立つだろう」と、映像アーカイブの意義を強調した。

登録7作品は同機構のYouTubeチャンネル(<https://www.youtube.com/channel/UC1mcltjivGxL057ei50Yakg>)で公開している。

